COVID-19拡大抑止の環境下における フィールドワークの実践

―中山道妻籠宿，奈良井宿，木曾平沢における2020（令和2）年度「地理学特講」の実施とその工夫―

香川貴志 [*1]

Practice of Geographical Field Work under the COVID-19 Expansion Restraint: Memorandum of the Geographical Field Trip in Tsumago-Juku, Narai-Juku and Kiso-Hirasawa on the Nakasendo Historical Main Route

KAGAWA Takashi

抄　録：本稿は，2020（令和2）年度の前期集中講義として実施した学部開設科目「地理学特講」と大学院開設科目「地理学特論Ⅰ」の備忘録である。このうち事前学習については別稿（香川，2021）で詳述したので，本稿では事前学習のアウトライン，及び現地でのフィールドワーク（以下，章節タイトル等を除く本文中ではFWと略記）と事後評価についてまとめる。今年度は受講登録時からCOVID-19（新型コロナウィルス感染症）が深刻さを日々増す状況にあり，当初の予定が変更を余儀なくされた。それゆえに非常時におけるFWの実施記録としては大変に貴重なものとなるはずである。

キーワード：重要伝統的建造物群保存地区，文献研究，中山道，妻籠，奈良井，木曽平沢

Ⅰ．社会科教材としての重要伝統的建造物群保存地区と現地フィールドワークの意義

筆者は，偶数年に学部授業「地理学特講」と大学院授業「地理学特論Ⅰ」，そして奇数年には学部授業「地理学研究」と大学院授業「地理学特論Ⅱ」を担当している。いずれも現地FWを伴う科目である。コンテンツ重視の暗記科目と誤解されがちな小中学校の社会科と高等学校の地理歴史科について，筆者は平素から誤認を払拭すべく努力している。

とりわけ地理的な内容は，現地FWで現物を観て，そして地域事情に精通した人々の話を聴いて，現実の生活と密接に関連させつつコンピテンシー重視の考察や議論に導きやすい利点がある。他方，「地理よりもストーリー性がある」といわれがちな歴史的な内容は，過去を扱うだけに日常生活との乖離を避け難い。また「現実の社会そのもの」といわれる公民的な内容は，とくに小中学校では児童会や生徒会活動などでの疑似体験に依拠せざるを得ない部分が大きい。

ところが，現実の私たちを取り巻く生活圏には，少なからず「土地の歴史や文化」が宿っており，それが小中学校の社会科の領域や分野．そして高等学校の地理歴史科と公民科の各科目を繋ぐ触

[*1] 京都教育大学，同附属桃山小学校（併任）

媒的な効用をもたらす。とくに小学校社会科の中学年（第3学年・第4学年）で扱う「身近な地域」や「昔のくらし」は，社会科を構成する諸領域の橋渡しをする重要単元である。その教材としての重要伝統的建造物群保存地区（以下，重伝建地区）は，「地域で具現化した歴史」であることに加え，「保存・保全・修景を通じた地域再生における公民的資質」とも深く関わる。

さいわい本学のある京都市には，著名な重伝建地区が4か所（上賀茂，産寧坂，祇園新橋，嵯峨鳥居本）あるため，国内屈指の優れた現地学習環境に恵まれている。一方，京都府外からの進学してくる学生も多い本学では，他地域と京都を比較しつつ地理や歴史に関する経験を積んでおくことが，授業実践力の向上に大きく寄与すると考えられる。こうした観点から，筆者は本章冒頭に記した諸科目で積極的に重伝建地区を巡り，現地での観察や解説，FWを重ねてきた。

具体例を列挙してみよう。重伝建地区を意図して訪問したのは2006年の長崎市内の2か所（東山手，南山手）が嚆矢である。長崎は学生たちからの訪問希望が高い都市なので2013年にも再訪している。同様に訪問希望が高い北海道については，2008年と2012年に函館市元町末広町を訪ねた。前者では続けて道央にも足を延ばし，後者は八郎潟や白神山地，弘前を巡った後の訪問だったが，弘前市仲町の重伝建地区は行程上の制約により車中からの周辺観察に留まった。東北地方では2019年に福島県内3か所（南会津町前沢，下郷町大内宿，喜多方市小田付）を巡った。

関東地方は本学の授業としては未踏であるが，中部・甲信越地方では2020年度実施の今回の他，2016年に高山市の2か所（三町，下二之町大新町）を訪問した。中国地方については，2010年に島根県の津和野町津和野と大田市大森銀山，山口県萩市にある4地区のうち3地区（堀内地区，平安古地区，浜崎）を扱った。また，四国地方では2019年度に西予市宇和町卯之町と内子町八日市護国でFWを実施した。

以上のように重伝建地区を扱った授業の記録は，それぞれ翌春に刊行される『京都教育大学教育実践研究紀要』『京都教育大学環境教育研究年報』などにまとめている。本稿末尾の文献欄では，上記の授業実施年に1を加えた翌年に刊行されているものが，授業実践記録に相当する。なお，2014年度に訪問した神戸市には中央区北野町山本通に重伝建地区があるが，この年度の授業は震災復興に軸足を置いたもので，景観保全を主な対象にしていないため参考文献から省いた。

Ⅱ．受講登録と事前学習会

本章では受講登録及び受講学生の内訳，そして事前学習会について整理する。

2.1　受講登録と受講学生

今年度はCOVID-19拡大抑止のため，受講登録時から異例の状況に見舞われた。例年であれば，偶数年開講の本授業科目と奇数年開講の「地理学研究」は20名前後の受講希望者を集めるものの，今年度はそれが9名に達したに過ぎず，同時開講する大学院「地理学特論Ⅰ」の2名を合算しても11名の仮登録となった。学年及び男女の別は次の通りである。まず学部生は2回生が男子1名，3回生が女子4名，4回生が男子4名で，大学院学生はM1が男女各1名であった。このうち4回生男子1名は休学を検討することとなり受講放棄となった。また，大学院の男子学生は就職先の業務開始日が9月1日であるため，前期末を以て中退となり，事前学習会への参加と

COVID-19 対応で準備したバーチャルフィールドワーク（以下，VRFW）の併用で評価した。

結果として現地 FW に参加した受講生は，男子 4 名（社会領域専攻 4 回生 3 名と同 2 回生 1 名）と女子 5 名（社会領域専攻 2 回生 4 名，大学院教育学研究科教育学専攻 M1 が 1 名）の 9 名となった。これに VRFW で単位認定した大学院教育学研究科社会科教育専修 M1 の男子 1 名を加えた 10 名が今年度の受講生である。現地 FW が 10 名に満たないのは賑やかさには欠けるものの，今年度の COVID-19 による社会環境の下では，集団行動の際も周囲に迷惑をかけずに済んだ。また，引率者の立場からすれば，例年になく臨機応変の対応が求められた今年度は，細かな事前準備や現地説明に好都合な適正規模の授業となった。

2.2　第 1 回事前学習会

当初は 5 月 19 日（土）の正午から 15:10 までの 2 コマを使って第 1 回事前学習会を実施する予定であった。しかし，対面授業の実施ができなくなったため，文献精読をしたのちに当該文献のキーワードと要旨をメール添付で提出するという課題を与えた。対面授業が 6 月 2 日（火）から出来るようになったため，第 1 回事前学習会を 6 月 13 日（土）の 12:00 ～ 15:10 に再設定したが，オンライン授業の弊害で課題提出が芳しくなく，直前になって実施を見送った。

2.3　第 2 回事前学習会

実質的に初回の事前学習会となった第 2 回事前学習会は，6 月 20 日（土）の 12:00 ～ 15:10 に実施した。内容は今年度の訪問地域（妻籠宿，奈良井宿，木曾平沢）に関する文献の要旨集を配布して，それを各自が熟読ののち，小学校，中学校，高等学校いずれかの「修学旅行の栞」の導入部を 3 地域それぞれについて作成するという作業である。各地域の課題では 20 字までのタイトルを含めて 400 字以内という字数制限を設けた。文献要旨集の詳細については別稿（香川，2021）で説明した。提出された書類を読むと，全員が 3 地域との同じ校種を対象として書いており，小学校を扱った者が 6 名，中学校を扱った者が 4 名だった。うち 1 名は，元中学校教員の大学院学生である。仕上がりは総じてわかりやすく良いまとめ方ができていた。

受講生に尋ねると，400 字という制限字数は当初「少ない」と感じるものの，実は 800 字や 1,200 字のものよりも難しいようである。多くの事柄を書き記せないことに加えて，エッセンスを抽出してシェイプアップされた文章を作成するのが難しいのだろう。限られた時間内に制限字数のある原稿を仕上げる取組は，学校の広報誌や「学級だより」を書く際に大きな力となるはずである。

2.4　第 3 回事前学習会

例年通りに第 3 回事前学習会は夏季休暇の直前，今年度は 8 月 8 日（土）の 12:00 ～ 13:30 に設定した。ところが，8 月上旬に COVID-19 への対応策として，本授業科目などの集中講義を含む授業は 8 月 16 日まで全面休講，学生は原則入講禁止となった。この対応を受けて，第 3 回事前学習会も中止となり，それに代わる善後策が求められた。さらに社会情勢からして，8 月 8 日時点で現地 FW（8 月 20 ～ 22 日）実施の可否は全く見通せなかった。

熟考した後，科目担当者である筆者は，第 3 回事前学習会で配布予定であった配布物に急きょ

加筆修正を施し，教務システムとEメールを駆使して資料送付先を調べ，資料一式をレターパックライトに封入し，全ての受講生に宛てて8月10日に発送した。ちょうど夏季休暇に入ったばかりの時期であることに加え，COVID-19の影響で帰省移動の有無が判明せず，その確認は決して容易ではなかったが，受講生10名という規模から緻密な対応が取れたのは幸いであった。

郵送した資料は，①封入物チェックシート，②第3回事前学習会説明資料，③文献要旨（増補改訂版），④事前課題1及び事前課題2，⑤塩尻駅周辺の新旧地形図（事前課題1で使用），⑥現地課題と事後課題，⑦感染拡大等で現地へ行けない場合の代替課題（事前課題3～事前課題5，VRFWの課題を含む），⑧フィールドノート，⑨現地FW用の奈良井宿の1/2,500基本図（2枚組），⑩現地関連リーフレットやブックレット（著者が予備調査で収集したもの）計10点である。

上記のうち就職準備で現地へ行けない受講生には，当初より⑥の代わりに⑦に取り組むよう命じ，現地FWの詳細についても理解してもらうために⑧を除くすべての配布物を送付した。なお，当該学生には必要な提出課題を現地解散に合わせて8月22日までに提出するように伝えた。また，現地FWに参加する学生たちは，第1日目の夕食前に上記④を集めることを徹底しておいた。

しかし，混乱はこれだけで終わらなかった。現地FWの実施に向けて更なる悲報が8月12日にもたらされたのである。「従前から学内の危機管理委員会で実施の是非が問われていた『地理学特講』」について「現地訪問を自粛せよ」との電話が筆者のもとへ入った。予備調査で大歓迎を表明してくれた現地関係者，決して楽ではない事前学習に励んできた受講生，COVID-19対策で入念に話し合ってきた奈良井の旅館のことを思うと簡単に自粛を受け入れることはできず，筆者は「旅館の相部屋が懸念材料であるのなら，ここをキャンセルして塩尻か松本でシングルルームを準備できるビジネスホテルを探す。そういう前提で現地FWを危機管理委員会で再検討願いたい」と申し出た。その際，長野県のCOVID-19罹患率が低いこと，県内でも木曽地方は罹患者がほとんどいないことを添えて説得した。

幸いにも8月13日にオンラインで模索した結果，松本市内でビジネスホテルのシングルルーム10室を8月20日と21日の連泊で予約することができた。奈良井の旅館には事情を伝えて宿泊キャンセルを申し出た。社会情勢を踏まえて我われの直前キャンセルを快く認めていただけたことには深謝の他に言葉が見つからない。

その後，受講生には教務システムを活用して，行程や宿泊先の変更，危機管理委員会からの通知次第では現地FWに代えてVRFWに取り組むこともあることを伝えた。危機管理委員会から現地FWを許可されたのは8月17日であった。細かな条件を示されたが，これらは第2回事前学習会（6月20日）に受講生へ伝達済みであった。宿舎がシングルルーム利用で食事無しの素泊りとなったため，宿舎変更や諸注意を教務システム経由で受講生へ伝達した。出発の3日前に実施の是非が決まるというのは授業担当者としては空前絶後にしたいものである。

Ⅲ．予備調査

話が少し前後するが，本章では7月上旬に実施した予備調査について記す。これも当初の計画通りには進まず，臨機応変の行動を試されるような苦行だった。

いずれの年度においても，筆者は原則的に訪問経験のある地域を現地FWの対象地域に選んで

いる。ただ，訪問してから何年も経っているような地域の場合は，可能な限り実際の現地 FW に先立つ 3 か月～ 10 か月程度前に予備調査を行うことにしている。これは現地 FW での集合場所の再確認，コインロッカーの有無，バス停留所やトイレの位置の確認，徒歩での移動時間の計測など多岐にわたるが，比較的新しい情報を市役所や町村役場で得ておく目的もある。また，対象地域の地理的な情報は小学校社会科副読本に簡潔に記されていることが珍しくないため，地誌的な文献の確認と合わせて現地の公立図書館や教育委員会（大部分は市役所や町村役場内にある）を訪ねることも多い。

今回の対象地域に関して，筆者は 2012 年 3 月に妻籠宿，2018 年 7 月に奈良井宿を訪問した経験があったものの，木曾平沢は通過経験しかなかった。また，現地でしか入手できない資料もあったため，2020 年の 2 月～ 3 月に予備調査を企てた。しかし，折からの COVID-19 拡大のあおりを受けて 5 月末まで県間交流についての強い自粛要請が継続され，当初の計画は反故になった。

そこで 7 月 7 ～ 9 日に予備調査に赴いた。予備調査での訪問先は，現地 FW の現場となる 3 地域と地域内施設に加えて，南木曽町役場（同教育委員会），塩尻市役所（同教育委員会），塩尻市立図書館，県立長野図書館である。

しかし，大雨で九州地方に大災害をもたらした梅雨前線は甲信越地方でも猛威を振るい，予備調査初日の 7 月 7 日，筆者は名古屋駅到着後に中央本線の中津川～塩尻の大雨による運休を知り，名古屋駅で東京経由の迂回乗車の手続きを取った。南木曽町役場には訪問できない旨を電話連絡し，同教育委員会から同町役場へ送達してもらった妻籠宿関係の資料の郵送を依頼した。塩尻に到着後は塩尻市役所と同教育委員会で資料収集と聴き取りを行い，続けて塩尻市立図書館で資料（主に小学校社会科副読本）の閲覧と複写に励んだ。

翌 7 月 8 日も早朝から長野県に大雨警報や同特別警報が発出され，FW の予備調査は諦めた。ただ，前日に天候悪化を懸念して行政機関での聴き取りと資料収集を徹底して「一見」には及ばないものの「百聞」の一部は得られた。塩尻駅近くの宿舎で気象情報を注意深く集め，次の目的地の県立長野図書館へ向かうべく雨脚が弱くなるのを見計らって宿舎を発った。松本～長野間は特急が全て運休していたため移動は時間と手間を要した。長野駅到着後は，郵便局から南木曽町役場へ宛てて返信用封筒を入れたレターパックライトを投函した。前日に電話で依頼しておいた資料郵送のための手続きである。県立長野図書館では，塩尻市立図書館に所蔵されていない資料の閲覧と収集に励んだ。目的を終えたのは閉館時刻に近かった。

予備調査最終日の 7 月 9 日になっても，午前 8 時の段階で中央本線塩尻～中津川（時間により塩尻～南木曽）の運転見合わせは続いていた。気象情報や JR の運行情報から判断して，中央本線の再開は時間の特定ができない状況だったため，筆者は長野駅で帰洛経路の変更（迂回乗車）を申請し，北陸新幹線，北陸本線，湖西線経由で京都に帰着した。

Ⅳ．現地フィールドワーク

本章では，8 月 20 ～ 22 日に実施した現地 FW についてまとめる。既に第Ⅱ章第 4 節で触れたように，本授業科目は現地 FW の直前まで，現地に行けるか否かが定まらず COVID-19 に翻弄された。ただ，こうした状況にあっても現地へ行くことに拘れたのは，予備調査の時点で対象地域

の行政機関や観光協会が大歓迎の意思を示してくれたことに加え，事前学習課題と真摯に取り組んでくれた受講生の熱意のおかげだと考えている。以下の本章では，念願かなって発つことができた現地FWでの行動を整理する。COVID-19拡大抑止の見地から制限の多い不便さはあった。しかし，こうした環境の下でも危機管理を徹底すれば野外実習は問題なく実施できる。本稿がその参考になれば幸いである。

4.1　第1日目（8月20日（木），晴れ，南木曽町の最高気温33.4℃（15:00））

節タイトルに示した同日の最高気温は，気象庁のWebサイトによるもので必ずしも我われが現地に滞在中の時間のものではない（次節以降も同様）。

南木曽駅で12:25に現地集合の後，我われ一行は南木曽町コミュニティバスで妻籠を往復し，重伝建地区の観察技法を筆者が現地説明した。建物の構造として中山道の木曽地区で特徴的な「出梁造り」をつぶさに観察し，建物の機能では物販，飲食，宿泊の3機能を判別する練習をした。また，宿場町の防衛機能として遠見遮断の解説をした。遠見遮断とは，道路を意図してクランク状に屈曲させて遠方の視界を遮り，さらに侵入速度を抑制するための古い都市計画技法である。これは枡形や鍵の手と呼称されることもある。

妻籠での滞在時間は僅か1時間程度だった。しかし，翌日に予定している奈良井でのFWに向けて実のある予行演習ができた。南木曽駅を14:34の普通電車で発ち，終着駅の松本駅には16:48に到着した。途中の塩尻付近で現地の小学校社会科副読本でも扱われるワイン用ブドウ畑を車窓から観察した。これは事前課題1の地形図読図の一部で扱った土地利用である。

松本の宿舎に到着後は，屋外駐車場の傍らで翌日の行動予定，そしてCOVID-19対策として遵守すべき注意点を伝えた。主なものを列挙すると，①自室外ではホテル内を含みマスク着用（屋外で疎な場合を除く），②夕食と朝食は買ってきたものを自室で摂る，③昼食時の会話は飲食後マスク着用で行う，④受講生同士での部屋訪問は禁止，⑤連絡は電話かSMS（Short Message Service，一部のモバイルフォンではCメールとも呼ばれる）で対応，⑥買物以外の食事や遊興を目的とした外出禁止，などである。他にも細かな指示をしたが，異常な環境の下での宿泊を伴う現地FWなので，致し方ないことだと考えている。

4.2　第2日目（8月21日（金），晴れ，木祖藪原村の最高気温34.3℃（13:10））

この日は奈良井と木曾平沢を巡ったが，奈良井には気象データが無く，木曾平沢は10分単位の観測データが無い。そこで両地域から遠く離れていない木祖藪原のデータで代用した。最高気温34.3℃からも分かるように，当日は木曽地方で熱中症アラートが発令された。これは前日夜の天気予報でも報じられていたので，筆者は当初予定していた行動計画を短縮授業として再設計し，それを当日7:10のホテル前での集合時に告げた。

松本駅まで歩き7:42の普通電車で松本駅を発って，奈良井駅には8:40に到着した。奈良井駅到着時点で陽射しは既に強く，FW中に短時間で体力を奪われるのは自明だった。配達等の自動車に注意しつつ可能な限り日陰を歩くよう指示し，短縮授業のために編成した班構成を伝えた。

現地FWに参加した受講生は9名だったので，2名（男女各1名）の班を3つ，3名（男子1名，女子2名）の班を1つ，全部で4つの班を構成した。こうした班を編成したのは，同性で班

を作るよりも異性で班を組む方が作業効率の向上を図れるからである。

この4つの班には，それぞれの担当地域を決めて，そこを正確に調査してもらった。奈良井宿場町は江戸側から京側の鳥居峠に向けて（奈良井駅から南南西に向かって）下町，中町，上町の順に町組がある。このうち中町が宿場町として栄えた頃の中心で，本陣や脇本陣も当地にあった。そのため中町の道路幅員は下町や上町のそれよりも少し広い。そこで中町は全員が担当するようにして調査地域を一部重複させ，1班に下町・中町・北西側，2班に中町・上町・南東側，3班に中町・上町・北西側，4班に下町・中町・南東側を担当させた。

FWにおける調査項目は．町並みを構成する建造物（中山道に面する部分のみ）の構造と機能である。ただ，受講生は建築様式に詳しいわけではない。そこで，建物構造は木曽地方を象徴する「出梁造り」であるか否かの別，建物機能は物販・飲食・宿泊の3機能（重複する場合はその旨を記録）を調査させた。この間，筆者は奈良井宿内の各所で受講生の調査を観察したり助言を与えたりしたが，その最中に当日初めての熱中症アラートが防災無線で放送された。

実際に熱中症アラートが発令された以上，早々にFWを切り上げて，木曽平沢まで奈良井駅を11:24に出る塩尻市コミュニティバスで移動したのは正解だった。木曽平沢では詳細な調査を伴うFWは実施せず，バスを下車した「木曽くらしの工芸館」の見学と同地での自由昼食，そして事前学習会や各種資料で学んだ重伝建地区の観察に終始した。その際，予備調査で得た調査旅行専門委員会編（1983）による詳細な地域調査の結果も随所で話した。現地では受講生が漫然と地域観察をすることがないよう次章第3節に記す現地課題を事前に課しておいた。

木曽平沢駅を13:29に発った頃，受講生たちは疲労がかなり蓄積しているように見えた。松本駅に14:21に到着後，登山客が少ないため閑散としている駅のコンコースで暑さを避けてミーティングを行った。ここでは調査結果の地図化について質疑応答を行い，前節の末尾に列挙したCOVID-19抑止のための遵守事項を再確認して，以後は自由行動とした。相当な暑さの中でのFWが堪えたためか，地図化の作業結果を翌朝に提出することが気掛かりだったためか，大半の受講生はコンビニ等で夕食を購入して早々に宿へ帰ったようである。

4.3　第3日目（8月22日（土），晴れ，松本市の最高気温34.5℃（14:00）

奈良井の旅館で連泊する当初の計画では，第3日目の8月22日は木曽平沢を訪問する予定だった。しかし，前日に訪問を終えていたことに加え，天気予報が当日の猛暑を繰り返し告げていたため，第3日目は所定時間まで自室でFW調査結果を踏まえた地図作成の時間とし，9:00～9:30にロビーで課題を提出した者から適宜解散とした。

Ⅴ．事前課題，現地課題，バーチャルフィールドワークを含む代替課題

本章では，章題に記した課題について，その内容の概略と受講生からの提出物の特徴や評価観点を整理する。

5.1　事前課題

現地に赴くまでに仕上げて現地FW第1日目に提出させる事前課題は2点を課した。この課題

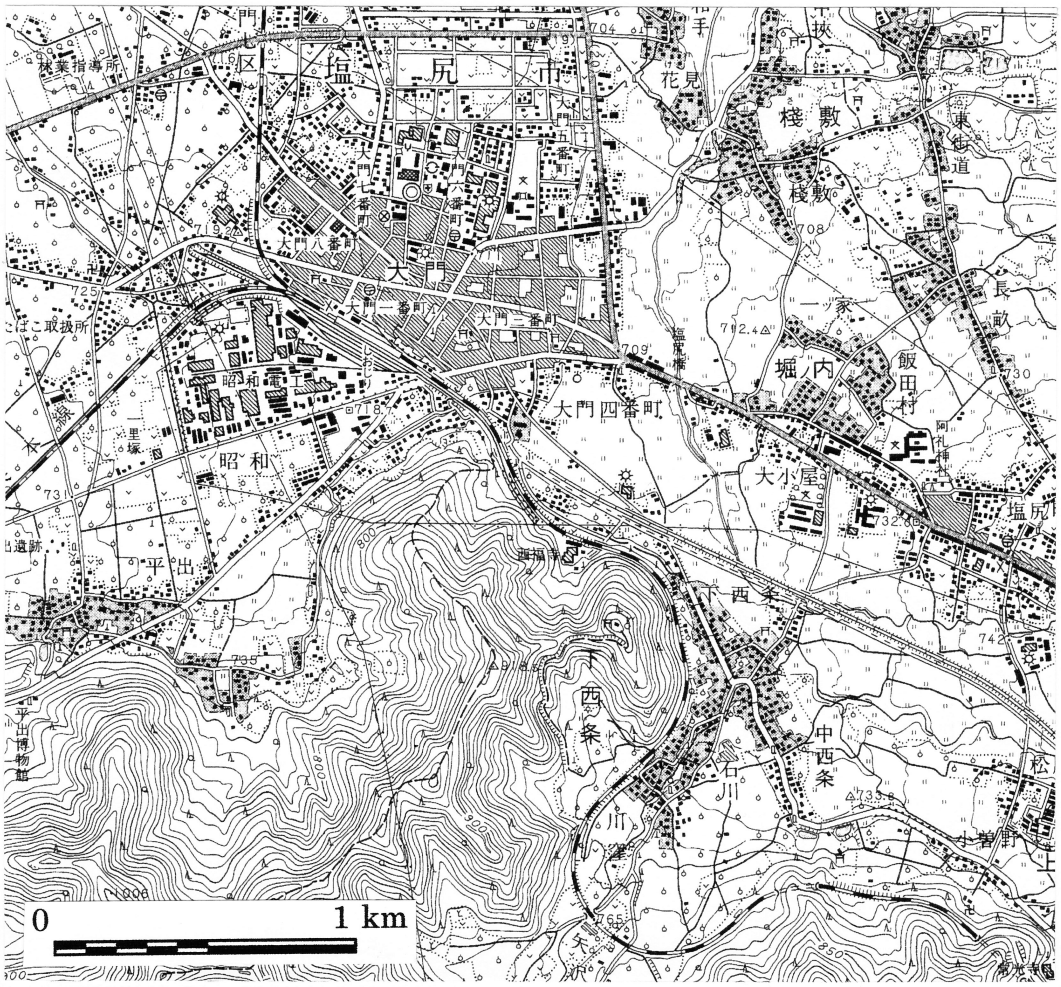

図1　塩尻駅周辺の1/25,000地形図（旧図）
（資料）1/25,000『塩尻』1976年10月30日発行

は，第Ⅱ章第4節に記したように第3回事前学習会が行えなかったため，受講生へ郵送した。この課題2点については，現地FWには不参加の1名にも取り組んでもらった。当該学生には，現地FWの最終日である8月22日23時55分を提出期限としてEメール添付での提出を指示した。

事前課題1は，新旧地形図の読図問題で，センター試験様式で4点の選択肢から正答を1つ選び，正答と誤答の全てについての解説を100字以内で求めたものである。例年は，高校入試か大学入試をイメージして作問させ，正答と誤答の全てについて解答・解説させている。しかし，今回はCOVID-19対応で忙殺されたため，筆者が準備していた例題をそのまま解いてもらった。対象地域は今回のFW訪問地域である奈良井と木曾平沢を行政域に含む塩尻市中心部（図1，図2）である。設問は次のとおりである。

【事前課題1】別紙の1/25,000地形図「塩尻」の旧図と新図（いずれも原寸大）を使った地形図

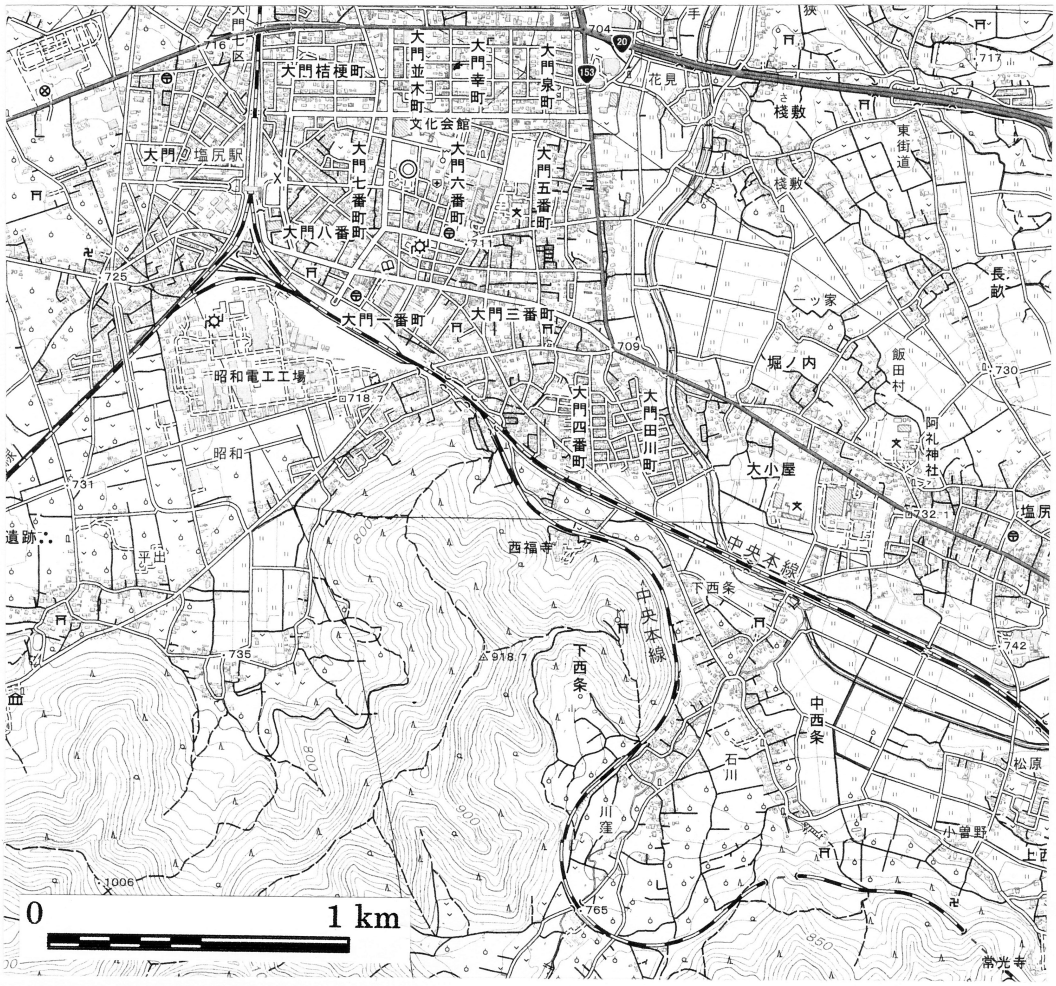

図２　塩尻駅周辺の 1/25,000 地形図（新図）
（資料）1/25,000『塩尻』2020 年 2 月 1 日発行

読図に関わる次の設問に解答し，正解を①～④のうちから一つ選びなさい。そして，選択肢①～④の全てについて，当該選択肢が正解になる根拠（正解になる選択肢 1 つについて），また正解にならない根拠（正解とならない選択肢 3 つについて）を各々 100 字以内で解説しなさい。

【設問】「塩尻」の新旧地形図から読み取れる事柄の説明として誤っているものを次の①～④のうちから一つ選べ。

①　塩尻駅は旧来の位置から約 750m 北西側に移設された。

②　新旧両図を比較すると塩尻市役所の位置は移動していない。

③　新旧両図とも昭和町～図の西端にかけて果樹園が多くみられる。

④　中山道の塩尻宿場町は旧図の駅と市役所の間に位置している。

この事前課題 1 と後述する事前課題 2 は、当初の予定を少し後ろ倒しにして第 2 日目朝の集合

時に集めた。その際，筆者が準備しておいた解答・解説例（図3）を配布した。

正解した受講生（現地FWに不参加の者1名を含む）は10名中8名に及んだ。しかし，新旧地形図の東端付近の街村を解読して当地を塩尻宿と指摘した者は正解者8名のうち3名に過ぎなかった。他の5名の解説は大同小異で「新旧の塩尻駅周辺の市街地が面的に広く，建物が総描されているため，ここは宿場町とは考え難い」というものであった。解答を誤った受講生2名は，いずれも正解を②としていた。ともに市役所周辺の街路の誤読が正解できなかった原因である。

【正解】④

【解説】 ➡より先の「です，ます」調で記した部分は，解説に関する補足説明です。

① しおじり駅（旧図）は図上計測で約3cm北西側に移動して新図では塩尻駅と記載されており，旧来の場所にはない。問題文の中に地形図は原寸大で，その縮尺は1/25,000とあるので，説明は正しく正解にはならない。【97字】

➡旧来の国鉄「しおじり」駅は1982（昭和57）年に現在の位置に移動しました。これは東京（図の南東方向）から名古屋（図の南西方向）までの中央本線が一貫して方向転換せずに全線走破できるよう設計されたためで，駅が移転するまでは名古屋～長野（図の北方向）の直通列車は，特急や急行であっても塩尻駅での方向転換を余儀なくされていました。現地では塩尻駅を境に東京方面が中央東線，名古屋方面が中央西線と呼ばれることもあります。現在，東西両線を直通する定期列車はありません。

② 市役所の地図記号は◎なので，まずは両図でそれを探す。両図とも市役所は大門六番町と同七番町の間にあり不動と考えられるが，念のため周辺道路を確認しても移動はなく説明は正しい。よって正解ではない。【95字】

➡後の選択肢④とも関連しますが，塩尻駅周辺の市街地は，主に鉄道開設以降に発達したところです。市役所周辺の市街地は旧図と新図の間に道路整備などを経て住宅の充填も進んでいますが，旧図から幅が狭くなったように見える道路も散見されます。道路幅を狭くする都市計画は極めて稀なので，こうした変化は殆どの場合，歩道を伴う沿道型緑地の整備によるものであると解釈するのが穏当です。

③ 両図とも果樹園が広く分布している。新図の駅西側で住宅地に転用された箇所もあるが大部分は維持されており，ここで栽培される果物が経済的に重要であることがわかる。正しい記述なので正解とはならない。【95字】

➡上の解説にも記したように果樹園の記号はリンゴの果実をイメージしてデザインされています。しかし，この記号がリンゴ園を示すとは限りません。とくに青森県や長野県などリンゴ生産が多い県では早合点で間違えてしまうことも多々あります。例えば長野県では，モモやブドウの栽培も盛んです。実のところ，塩尻駅周辺の果樹園の大部分はブドウ園で，ここでは国内屈指の著名なワイン用ブドウが生産されています。

④ 鉄道駅は平地が乏しい山間部等を除き近世以前の集落から離れて開設される。図幅東端中央部の街村形態を呈する集落の形状，集落内の不規則に曲がった街路から，ここが中山道の宿場町と考えるべきである。【95字】

➡地形図で旧街道を見つけるには，街路の両側の家屋が細長く連なっている街村（農村部では路村と呼ばれることもある）を探すのが簡便です。こうした集落には神社仏閣が多いため地図記号を探せば信頼度は更に増します。鉄道開設時には蒸気機関車からの排煙や火粉を理由とした鉄道忌避があったため，また旧来の集落の立退きを避けるため，駅は旧来の集落から離れて設置されるのが常でした。東京駅，京都駅，大阪駅などもその例に漏れません。

図3　筆者が作成し現地FW第2日目の朝に配布した事前課題1の解答例と個々の選択肢の解説

筆者が配布した解説例文では，地形図読図で狙われやすい点の説明に努め，教員採用試験に向けて刺激や参考となるよう心がけた。評価は解答の正誤よりも各選択肢の解説文の質で判断した。

事前課題 2 は次のようなものである。ここでは教員養成課程に所属する学生として，小学校学習指導要領やカリキュラムを適切に理解しているかを確かめた。したがって，文章表現の巧拙よりも内容の適切さを重視して評価した。

【事前課題 2】あなたが仮に妻籠宿，奈良井宿または木曾平沢でボランティアガイドとして採用された場合，ある家族（ご夫婦と小学 3 年生と小学 5 年生の兄妹の 4 人グループ）訪問客にどのように語り始めますか。配布資料を熟読した後に，いずれかの宿場町を選んだうえで，その話し始めの部分を 400 字以内で記しなさい。原稿用紙を使う必要は無く，ワープロ出力で差し支えありませんが，末尾に（○○○字）と字数を添えてください。

事前課題 2 については，妻籠宿を対象にした者が 7 名，奈良井を取り上げた者が 2 名，木曾平沢は 1 名だけが対象に選んだ。この課題では，小学校社会科の学習指導要領やカリキュラムを正しく理解できているか否かに力点を置いた。つまり，第 3 学年前半で扱われる「私たちのまち」，第 5 学年の主に前半で扱われる「国土のようす」を踏まえた観点の有無や強弱から評価した。

5.2　現地課題①（奈良井）

奈良井での現地課題は，前章第 2 節で述べた奈良井における現地 FW の結果を記した調査マップ（原図は 1/2, 500 塩尻市基本図）を踏まえ，あらかじめ配布した調査マップと同じ 1/2, 500 塩尻市基本図に凡例を設けて調査結果を製図するというものである。

今回の調査内容は，出梁造りか否かという建築構造，そして建物用途（今回は物販店・飲食店・宿泊施設）という建物機能が地図に表現すべき内容である。構造については「出梁造り」と「非・出梁造り」のいずれなのかという二者択一，機能については先述の 3 種に加えて「その他」（一般住宅や空き家，公的施設など）という四者択一となる。

作図の際，上記の分類により 2 × 4 で 8 種の凡例を設けてしまうと，地図は凡例が過多になり判読が難しくなる。こうした難点のある地図を提出したのは 1 名だけだった。他方，見やすい地図にするには，建物機能について 4 種の凡例を設け，2 種に大別した建物構造に関しては何らかの工夫を施して判別の利便に資するようにしなければならない。つまり，①いずれかの構造の建物を輪郭のみの着色で表現し，他方を塗りつぶしで表現する，②いずれかの構造の建物の前面か内側に何らかの記号を付記し，他方には付記しない，③いずれかの構造の建物に黒で斜線を施し，他方には施さない，④建物の輪郭線が黒太か黒細かで「出梁造り」か否かを区分，などの表現手法が考えられる。

上記①～④のうち，①は線と面を問わず機能別に別色で着色する方法，②～④は線または面を機能別に別色で着色する方法である。各々の方法は① 2 名，② 3 名，③ 2 名，④ 1 名という人数が確認できた。機能の別を別色で表現する場合，通常は線（輪郭線）だけを着色するよりも，面（建物内部）を着色した方が目に映る着色面積が広いので判別は容易になる。これらの表現手法をまとめた凡例の見やすさ、全体的な図の美しさによって，この課題についての評価を行った。

no,	作　　品	季節	産業	地域
1	路地の奥 漆器並べて 愛込めて	…	○	…
2	奈良井川 漆器に映る 処暑の空	○	○	○
3	塗蔵の 中から垣間む 木曽漆器	…	○	○
4	平沢の 町を彩る 漆器店	…	○	○
5	建物の 側面続くよ どこまでも	…	…	…
6	隙間なく 並ぶ工房 アガモチで	…	…	○
7	アガモチに 水打ち涼む 漆器工	○	○	○
8	涼しさと 漆の残る 木曽の夏	○	○	○
9	塗蔵の 奥深きなり ジャパンかな	…	○	…
10	先人の 意思を引き継ぎ 守る街 江戸より吹き込む 木曾の風哉	…	…	○
11	蝉時雨 木曾の漆器に 重ね塗り	○	○	○

表1　受講生らによる木曾平沢の風情を詠んだ俳句，川柳，短歌

5.3　現地課題②（木曾平沢）

木曾平沢では，前章第2節の木曾平沢の箇所に記したとおり，現地滞在時間が短くなるのが必至だったため，事前から「木曾平沢の風情を五七五の俳句または川柳に詠む」という課題を与えていた。現地では，大部分の受講生がこの課題を念頭に置いて景観を観察し，木曾平沢の雰囲気を全身で感じているように見えた。

これと同様の課題は．前年度の会津地方訪問において喜多方市街地で実施し，現地観察の効果が存分に認められたばかりか評判も良かったので，今年度も試みたものである。筆者に俳句や川柳を評価できるほどの技量はないため，この課題については，誤って短歌を詠んだ者を除き同等に評価した。得られた作品に3つの要素（季節，産業，地域）が盛り込まれているか否かを添えて整理した（表1）。季語を織り込むのが若干難しかったのか，この条件を満たす作品は半数にも及ばなかった。なお，以上の作品群のうち，11番目は筆者の作である。

5.4　現地フィールドワークが不可能な場合に備えたバーチャルフィールドワークの設計と実践

現地FWまで約1か月となった7月中旬，受講生の一人である大学院M1の学生より，「就職先で9月1日から働くことになったのですが『地理学特論Ⅰ』は何とか最後まで履修したいと思っています。現地に行かなくても代替の課題等で対応していただくことはできないでしょうか」との相談があった。

COVID-19の趨勢からして筆者は現地FWに行けなくなることも視野に入れ始めていたため，それに備えてVRFWの設計に着手していた。そこで上記の大学院学生に「代替となるVRFWを作成中なので第3回事前学習会でそれを渡します」と回答した。結局，第Ⅱ章第4節で既述の通り第3回事前学習会は実施できず，事前課題等を郵送した。こうして最終的にVRFWを全ての受講生に配布することとなった。ただ，本章の前節までに記したように現地FWは無事に実施でき

たため，VRFWに取り組んだのは上記の大学院学生だけである。

代替課題としてのVRFWは3つの課題から構成されている。これらを以下の本節では代替課題1～代替課題3と記す。内容は次のとおりである。代替課題2は小課題7題からなる。また，代替課題3は，本章前節で触れた現地課題②（木曾平沢）」と同一である。

【代替課題1「トラベルプランニング」】東京の新宿駅から次の条件で妻籠宿，奈良井宿，木曾平沢を2泊3日で訪問して新宿駅に戻ると仮定した場合，出発から帰着（新宿駅帰着）までの移動行程と交通費合計額を時刻表（市販の紙媒体の時刻表や「駅探」「ジョルダン」など）やWeb検索を活用して提案してください。

ただし，普通乗車券では学割を使用せず，特急列車を利用する場合は普通車指定席を利用することとします。また，レンタカーやタクシーは利用できません。なお，交通費には上限25,000円の制約があります。

各地区での滞在時間は，妻籠宿が1時間以上，奈良井宿が3時間以上，木曾平沢は2時間以上とします。宿泊は1泊毎に宿を変えても連泊でも構いません。

この課題への解答は，中央東線の特急「あずさ」で新宿と塩尻を往復し，指定した3地区を巡るオーソドックスな行程が効率的に設計できていた。就職後は職種を問わず業務出張での旅程設計力が問われるので，こうした試みは職業訓練的に決して無意味ではなく，空間認識力を育成するという観点からも地理的な能力育成に大きな効用があると思われる。

【代替課題2「奈良井宿バーチャルフィールドワーク」】奈良井宿観光協会が開設しているWebサイト（http://www.naraijuku.com/news/2013/02/39）にアクセスし，標準的なPC画面（スマートフォンでは細部まで観るのが困難です）で本文の4行目あたりのこちらの部分をクリックすると開くGoogle Mapsのストリートビューを活用して次の課題に取り組んでください。課題(1)～課題(6)は，おおよそ奈良井駅から南西方向に進む順序で並んでいます。また，課題(7)は全体を総括した内容になっています。

大切な注意点が1つあります。Google社のGoogle Mapsからアクセスするストリートビューは，宿場内の多くの建造物が匿名化されており，細部を観察することができません。必ず上記サイトからのアクセスをお願いします。

(1) 上記Webサイト内にあるこちらの部分をクリックして最初に確認できる画像は午前と午後のいずれに撮影されたものですか。「午前」または「午後」で答えなさい。

(2) 伊勢屋と上問屋資料館との間にある2つの店舗が取扱っている商品について「左側：○○、右側：○○」のように答えなさい。

(3) 「鍵ノ手」の近くにある景観保全のための工夫を1つ探して21～30字で簡潔に説明してください。

(4) 「鍵ノ手」から少し進んだところの右手（駅からみて）にあるモルタル造りの住宅の隣の店舗（初老の2人連れが商品を観ている店舗）で売られている商品を2つ指摘してください。

(5) 街路左手（駅からみて）の民芸会館の向かい側の竹仙堂で販売されている傘から考えられる景観保全への配慮を21～30字で簡潔に説明してください。

(6) 上の(5)の傘売り場から向って右側の建造物の前にある自動販売機を景観保全の観点から改善するにはどうすれば良いか，21～30字で簡潔に説明してください。

(7) トータルに奈良井宿のストリートビューを観察した結果，あなたが気付いた宿場町の景観保全への配慮3点について各々21～30字で簡潔に説明してください。

代替課題に取り組んだ学生は1名なので，ここでは得られた解答の詳細な論評は避け，各々の小課題の狙いについて簡潔に記す。まず(1)はストリートビューの初期画像が現地FW用の奈良井宿の1/2,500基本図（2枚組）でどの地点でいずれの方向を向いているのかの判断力を確認した。(2)では地域観察でミクロスケールの観察をするための動機付けを図り，続く(3)では，重伝建地区の景観保全のための工夫を探すことを促した。(4)には上の(2)とも共通するが，観光地における産業としての「観光」が地域の日常生活を支える産業としての「小売業」と併存していることを気付かせる狙いがある。(5)は傘の色を総じて落ち着いた中間色にすることで景観との調和を目指している点に着目させた。ここまでの取組で重伝建地区における景観観察力が高まっていることを前提にして，(6)で自販機の色調を焦茶色にするなどの提案ができることを期待した。(7)は総括的な設問であり，電柱埋設化（無柱化）や，舗装の色調の工夫，店舗看板の和風デザイン化などの指摘が欲しいところである。

実際に得られた解答では，おおむね上記の狙いを満足する記述ができていた。後日，当該大学院学生に照会したところ，代替課題2に要した時間は1時間半程度とのことであった。ただし，この学生の専門領域は地理学ではなく初等社会科教育である。

【代替課題3「木曾平沢の風情を五七五の俳句または短歌で詠む」】この課題は，本章前節の「現地課題②」（木曾平沢）と同一のため当欄での説明は割愛する。

この課題に対する解答は，現地観察をしていないため臨場感が弱いのではないかと懸念していたが，既に示した表1において当該学生を特定できない程度の完成度には達していた。

Ⅵ．with コロナ「新しい生活様式」でのフィールドワークのためにーむすび代えてー

以上のように本稿では，前年の夏までは人類が未経験かつ未知であったCOVID-19拡大の脅威のもとでのFWの設計と実践について述べた。大学生の多くが相当する20歳前後の年齢層では，大部分の者が若く体力にも恵まれているため「罹患しているが極めて軽症または無症状」というケース，仮に感染していてもPCR検査に至っていないケースが多いと推察される。

したがって，COVID-19への警戒はマスメディアで注意喚起されているよりも徹底しておく必要がある。本授業科目の実施をめぐって，本学の危機管理委員会が「現地FWを中止せよ」と筆者に命じたことに対し，当初は授業担当者として理不尽さを覚えた。しかし，ひとたび現地FWで罹患者が出てクラスターを形成してしまうと，教員養成系の教育学部では大学だけでなく，教育実習先となる附属学校園にまで想像を絶する負の影響が及ぶのは自明である。

そこで，上記の「罹患して軽症又は無症状」のケースを念頭に置いた感染防止対策が必要になる。換言すれば，「感染しない」と同時に「感染させない」を徹底した行動規範が必須となる。繰り返しになるが，本稿の第Ⅳ章第1節に列記した諸注意，つまり①自室外ではホテル内を含みマスク着用（屋外で疎な場合を除く），②夕食と朝食は買ってきたものを自室で摂る，③昼食時の会話は飲食後マスク着用で行う，④受講生同士での部屋訪問は禁止，⑤連絡は電話かSMSで対応，⑥買物以外の食事や遊興を目的とした外出禁止，などが極めて大切である。

調査結果を持ち寄ってのミーティングでの白熱した議論，修学旅行のような相部屋での旅館宿泊，旅先の楽しい食卓，反省会を兼ねた打ち上げコンパ，これらはCOVID-19による環境急変で今や叶えられない夢となった。就寝時までマスクを外せないのはFWで疲れた身体に堪えるため，投宿先は必然的にシングルルームのあるホテルに限られる。そうなればビジネスホテルが無い離島などは，当然ながら現地FWの対象地域として選び難くなる。

ただ，このような不自由な環境の下で「リスクがあるからFWは止めておこう」あるいは「FWは安全第一を貫くべきでオンラインがベスト」などと無難かつ安易な判断を重ねていると，FWに支えられて発展してきた諸科学は必ずや衰退の道を辿ってしまう。私たちは工夫を凝らした試みを持ち寄って蓄積し，それらの長短所を共有して磨き合いながらFWの設計・運営技能を向上させていかなくてはならない。たとえ多少の不自由さは残ろうとも，フィールドに立つ喜びや感動，そして知的な面白さを継承していくことが，FWを重視する学問領域の更なる発展に向けた基盤となるからである。

謝辞

本稿をまとめるにあたり，長野県文化財保護協会（長野県教育委員会事務局文化財・生涯教育課文化財係）の柳沢美里様，南木曽町教育委員会文化財町並係係長の宮川　護様，南木曽町役場産業観光課商工観光係主任の吉村清花様，塩尻市役所都市計画課計画係主任の小幡ゆずき様，塩尻市教育委員会社会教育課文化財係技師の南澤　強様，県立長野図書館と塩尻市立図書館の皆様，そしてフィールドワークでお世話になった各地域の皆様に心より御礼申し上げます。なお，本稿の骨子については，2020年度日本地理教育学会大会（2020年10月3日，オンライン開催）において報告しました。

引用・参考文献

香川貴志（2007）長崎ば，さるかんね―平成18（2006）年度「地理学特講（地理学臨地実習）」「地域環境学臨地実習」の覚え書き―.『京都教育大学教育実践研究紀要』，**7**，pp. 1-10.

香川貴志（2009）函館・札幌・小樽のエクステンシブ型フィールドトリップ―平成20（2008）年度「地理学特講（地理学臨地実習）」「地域環境学臨地実習」の覚え書き―.『京都教育大学教育実践研究紀要』，**9**，pp. 1-10.

香川貴志（2011）歴史的遺産の「まちづくり」への応用から学ぶ―津和野・萩・石見銀山を巡るフィールドトリップ，平成22（2010）年度「地理学特講（地理学臨地実習）」の覚え書き―.『京都教育大学教育実践研究紀要』，**11**，pp. 1-10.

香川貴志（2013）義務教育で重視される項目をたどる北東北～道南エクスカーション―平成24（2012）年度「地理学特講」の覚え書き―.『京都教育大学教育実践研究紀要』，**13**，pp. 11-21.

香川貴志（2014）長崎ば，さるかんね2―2013（平成25）年度「地理学研究」の覚え書き―.『京都教育大学教育実践研究紀要』，**14**，pp. 11-20.

香川貴志（2017）「まち」の再活性化を学ぶ―飛騨古川，高山，富山における2016（平成28）年

度「地理学特講義の覚え書き―.『京都教育大学教育実践研究紀要』, **17**, pp. 1-10.
香川貴志（2019a）重要伝統的建造物保存地区でのフィールドワーク―愛媛県西予市卯之町と内子町を対象とした京都教育大学における授業実践―,『新地理』, **67**(2), pp. 20-30.
香川貴志（2019b）重要伝統的建造物群保存地区を学ぶための基礎文献と地形図読図課題―愛媛県西予市卯之町および喜多郡内子町の場合―.『京都教育大学環境教育研究年報』, **27**, pp. 53-64.
香川貴志（2020）地理学の視点で巡る「極上の会津」―2019（令和元）年度「地理学研究」の覚え書き―.『京都教育大学環境教育研究年報』, **28**, pp. 37-51.
香川貴志（2021）重要伝統的建造物群保存地区を活用した教材作成のための事前学習の記録―中山道妻籠宿，奈良井宿，木曽平沢に関する文献研究―.『京都教育大学環境教育研究年報』, **29**, pp. 1-12.
調査旅行専門委員会編（1983）『漆器の里に学ぶ 高校生の見た木曽楢川村』, 駒場学園高等学校 .
長野県（2020）長野県内陽性者発生状況（長野県「新型コロナウィルス感染症対策 総合サイト」所収）, https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kansensho/joho/corona-doko（2020年7月2日以降に随時確認）.
奈良井宿観光協会（2018）Googleマップ 奈良井宿ストリートビューのお知らせ. http://www.naraijuku.com/news/20134/02/39（2020年7月2日閲覧）